

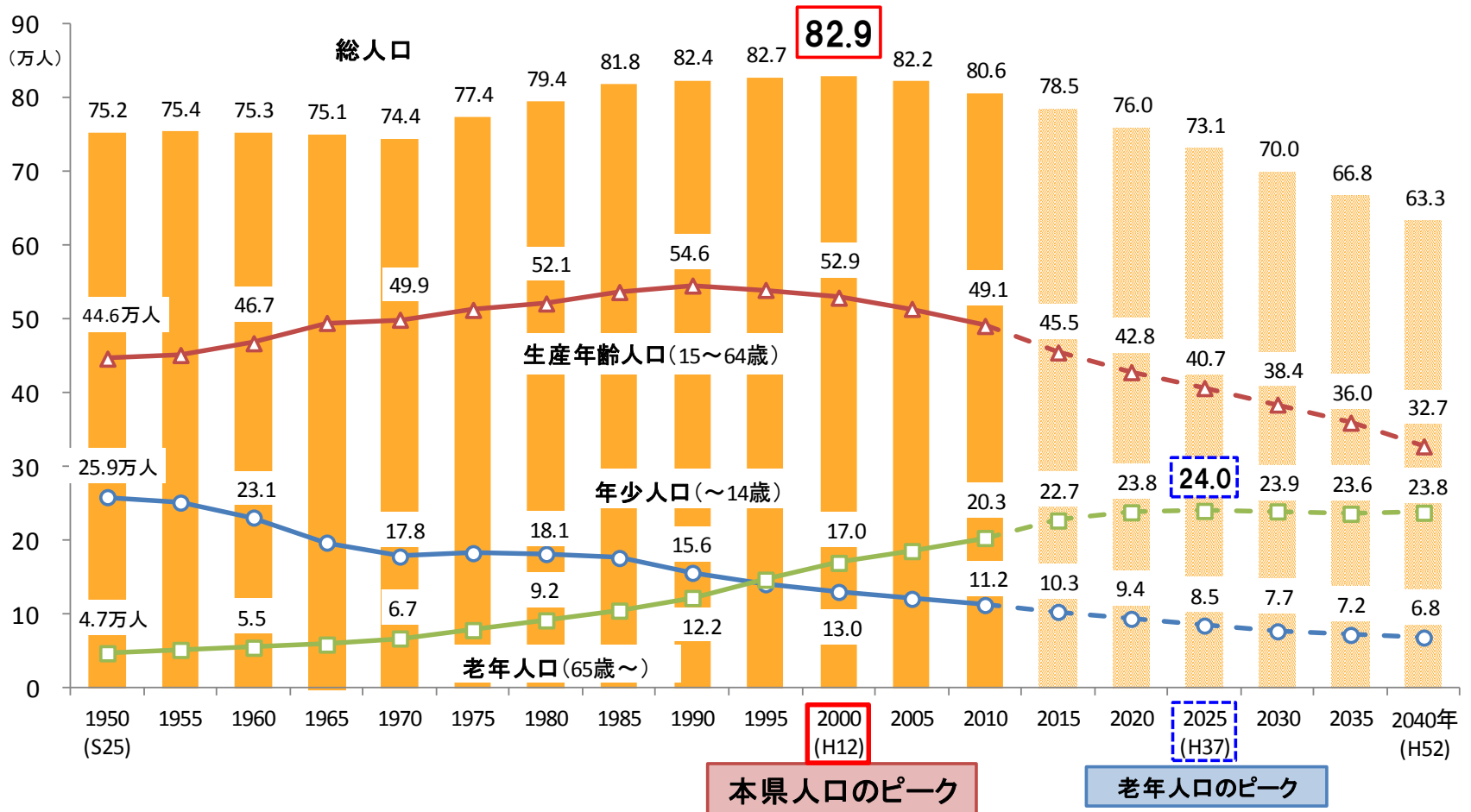
「ふくい人口ビジョン<仮称>」骨子(概要)

福 井 県

1 福井県の人口の動向

2000（平成12）年の82.9万人をピークに人口減少社会に

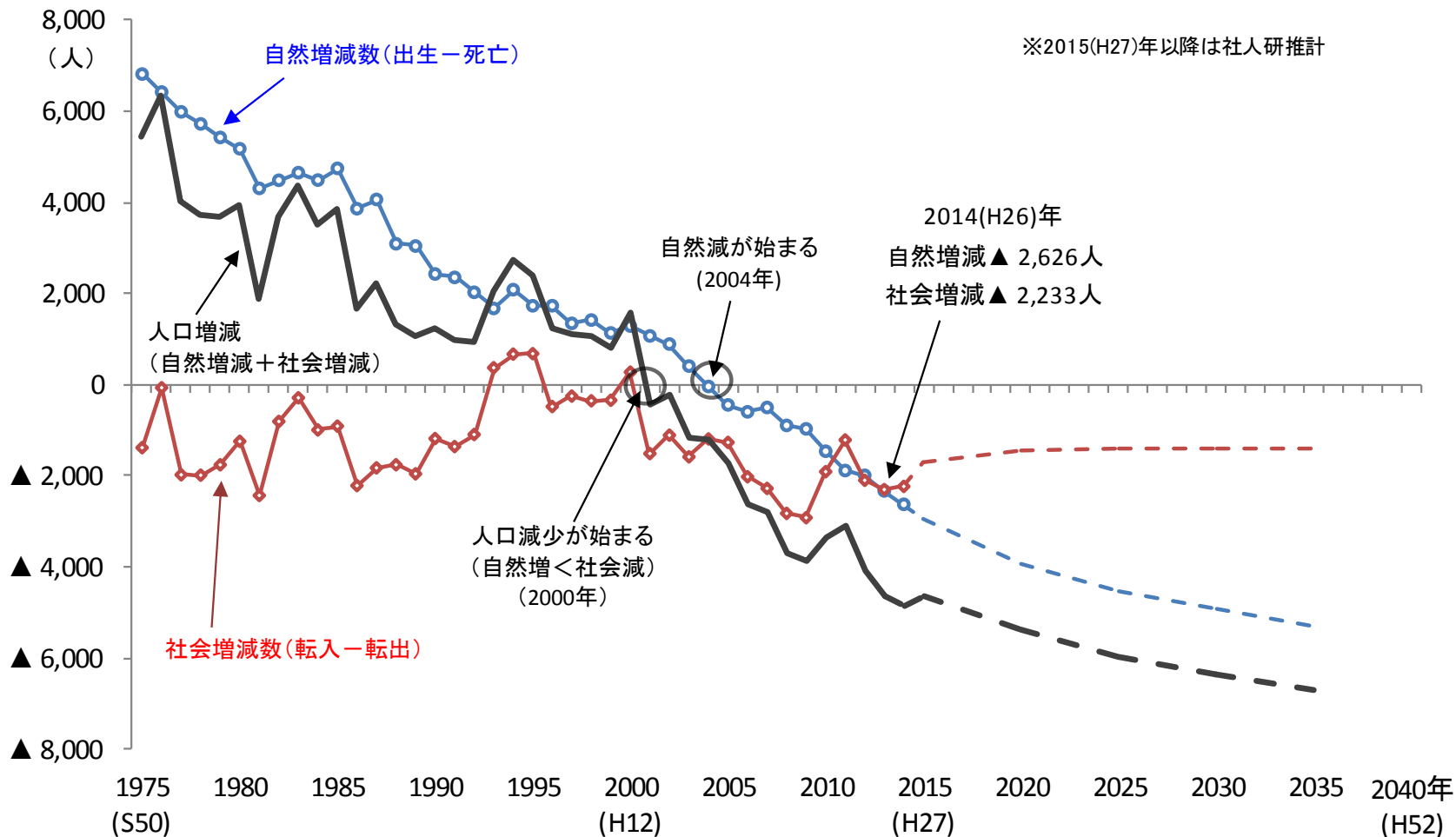
<福井県の総人口の推移と将来見通し>



出典: 国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口(25年3月)」

福井県人口の自然増減、社会増減の推移

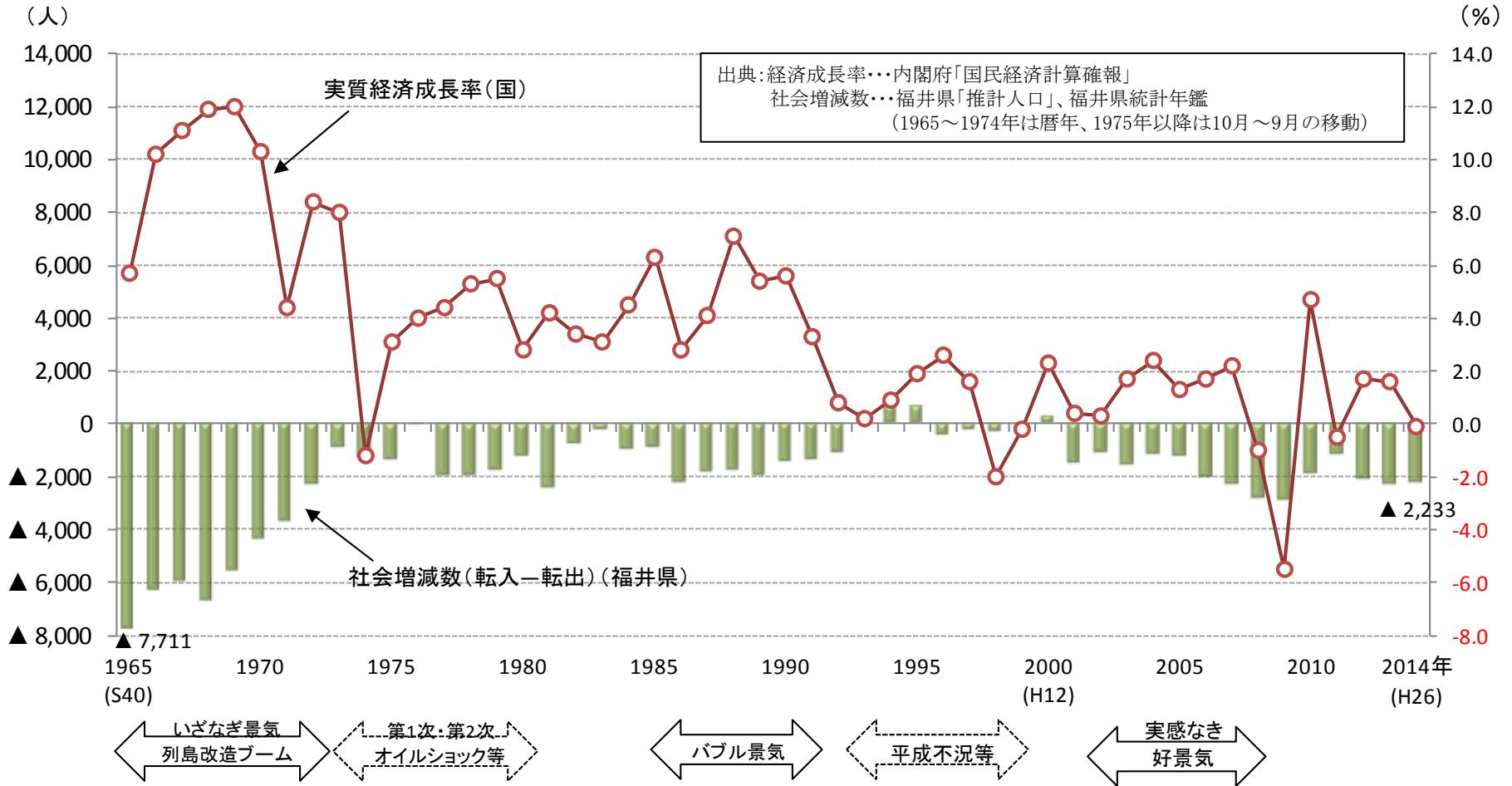
平成16(2004)年から自然減が始まる。社会増減も転出超過が続く



出典: 福井県「推計人口」、
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」に基づく推計

景気と社会増減の関係

＜経済成長率(国)と福井県の社会増減数＞

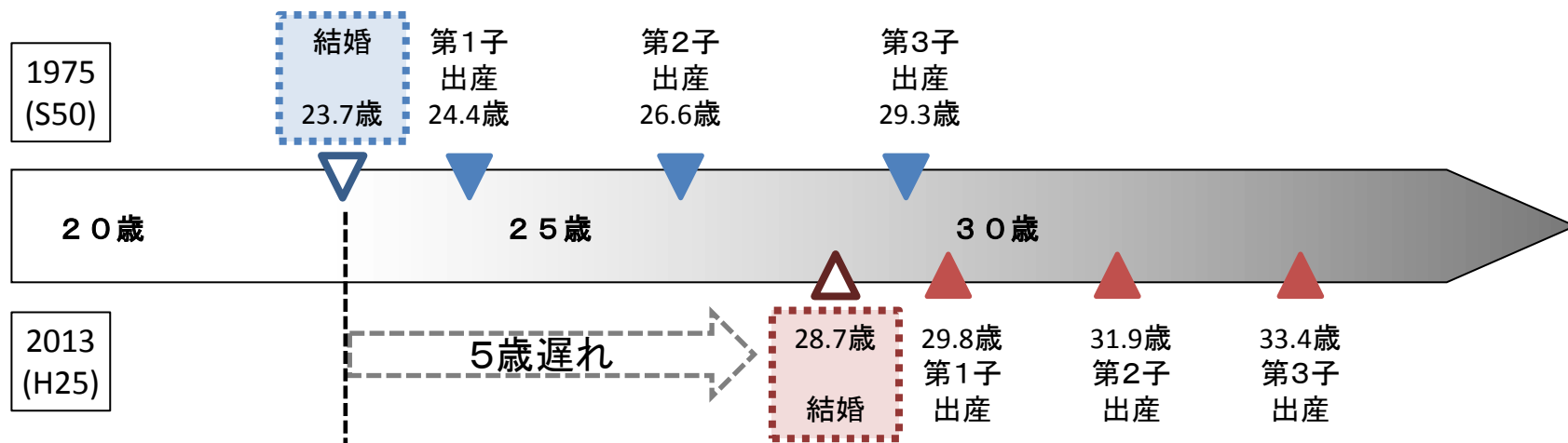


◎国の経済成長率が高い時に転出数が増加。近年は低成長率にも関わらず転出超過が続いている

(1) 自然減

女性の結婚と出産の関連①

＜福井県女性の平均初婚年齢と平均出産年齢＞



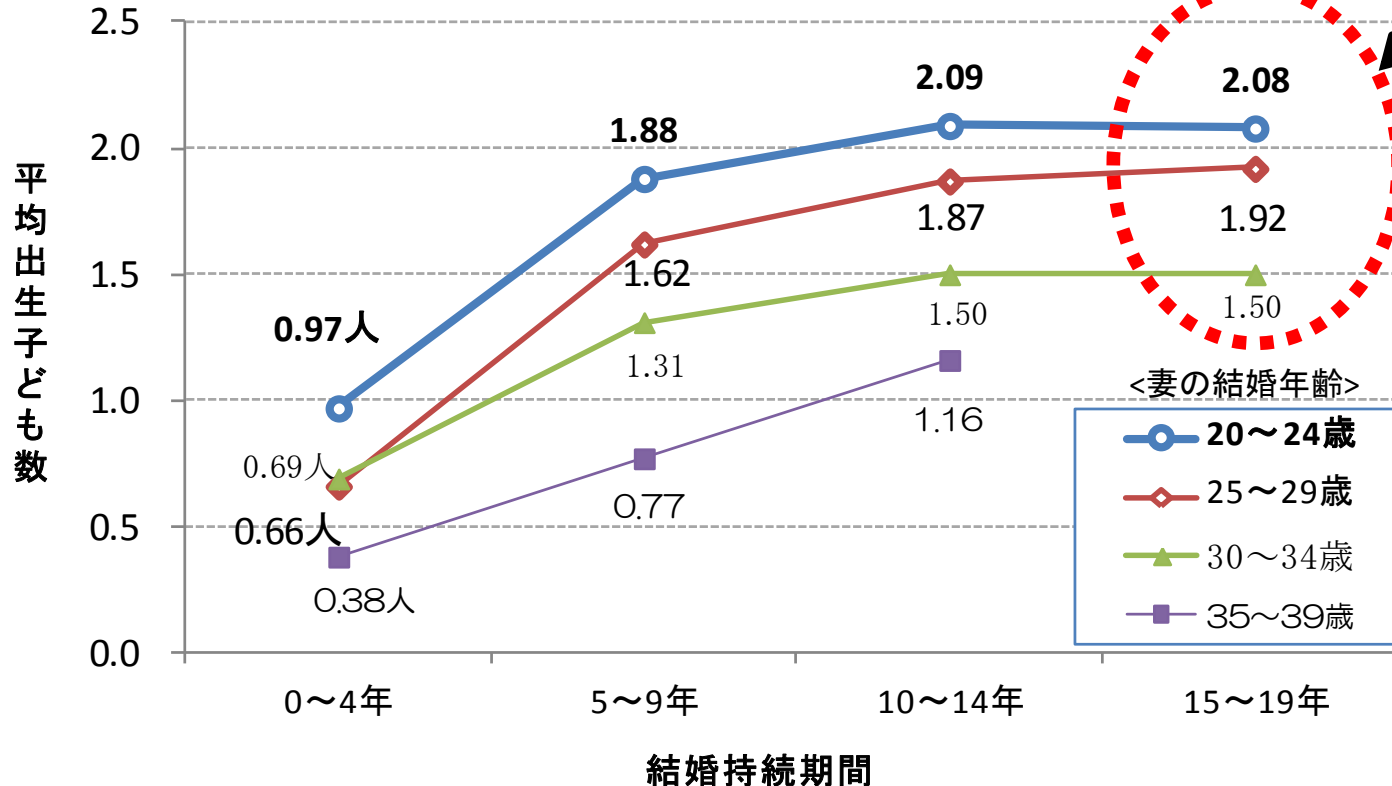
出典：厚生労働省「人口動態統計調査」(1975年、2013年)
「出生動向基本調査」(1977年、2010年)

◎県内の女性の晩婚化、晩産化が進み、出産数が減少

女性の結婚と出産の関連②

<女性の結婚年齢別出生子ども数(全国)>

早く結婚した方が
出生子ども数が多い



出典:第14回出生動向基本調査(平成22年)

◎20代で結婚した場合、子どもの数は約2人 ⇒ 若年時の結婚を促進

(2) 社会減

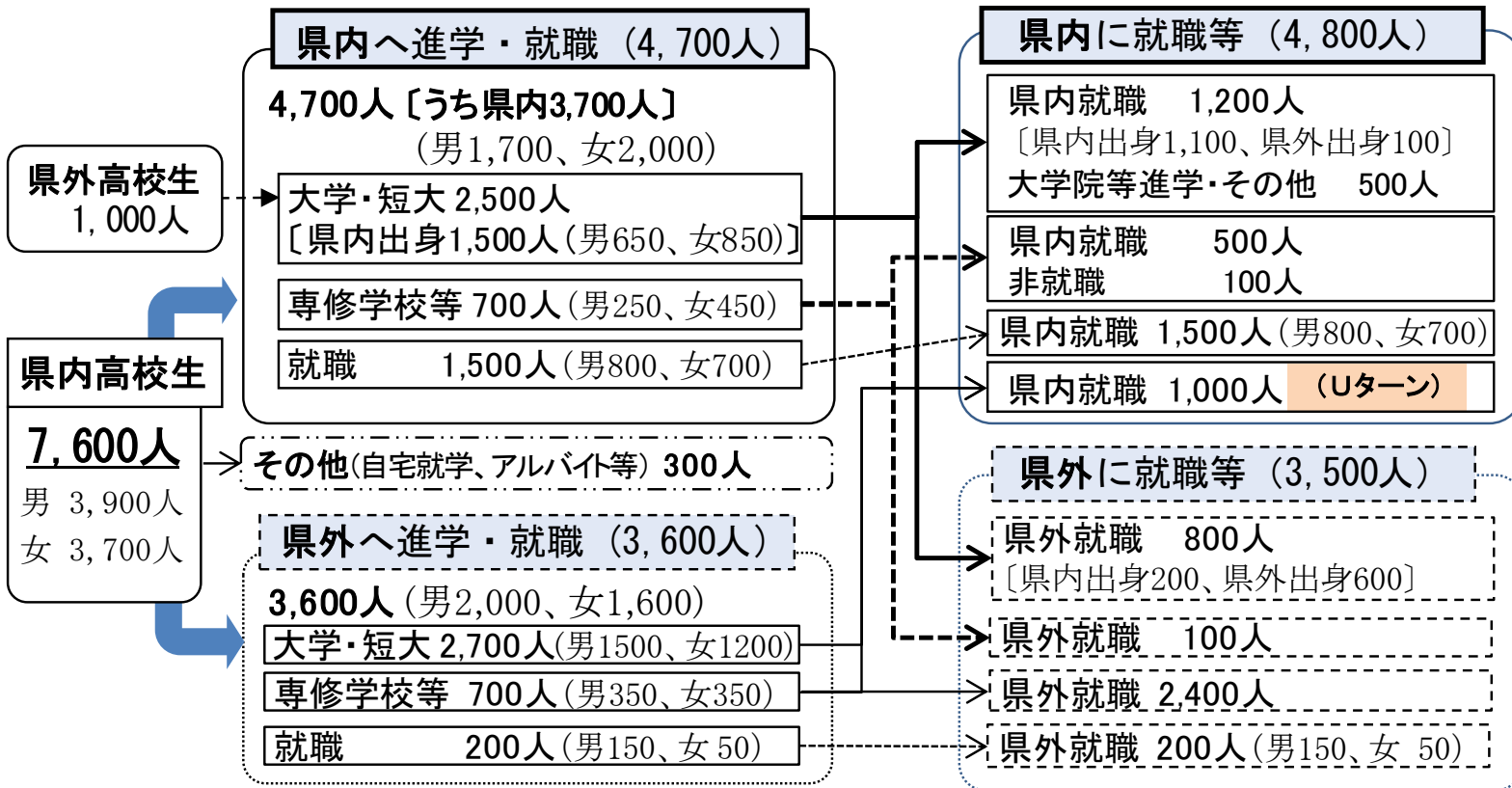
若者の県内定着の状況①

< 県内高校生の進学・就職状況 >

高校 (18歳)

大学 (19歳)

社会人 (23歳)

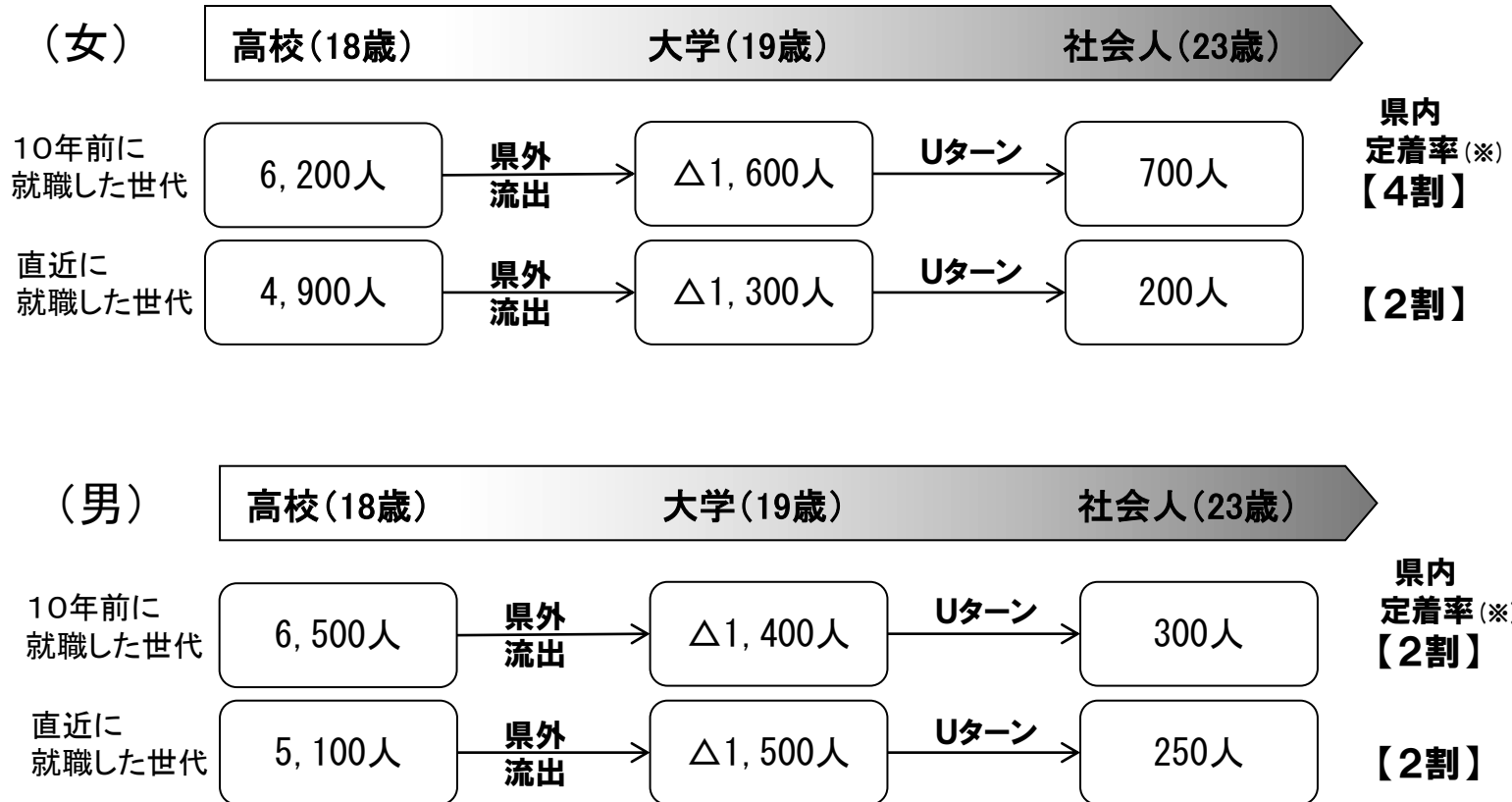


出典: 県進路実態調査結果の概要(H23)、県学校基本調査(H23)、福井県調べ(H27)、国勢調査を基に県が推計

◎高校卒業時に3,600人が県外流出、Uターンは1,000人とどまる ⇒ 大学や専修学校の県内進学を促進 (県外専修学校: 医療・看護・介護、美容ほか)

若者の県内定着の状況②

＜若者の県内定着率＞



出典：平成22年国勢調査を基に県が推計

※県内定着率…県内転入から県内県外流出を差引き県内に定着したと見込まれる人の割合

◎就職時の女性のUターン割合が減少 ⇒ 女性に魅力的な職場づくりを推進

2 人口減が地域に与える影響

○人口減少や人口構造の変化は、労働力人口の減少や消費市場の縮小を引き起こし、地域の経済規模を縮小させる。

- ・労働力人口：454千人(2000年)⇒424千人(2010年)
- ・家計最終消費支出：1.66兆円(2001年度)⇒1.60兆円(2012年度)
(▲600億円、3.8%減)

○高齢化の進展に伴い社会保障費が増大する一方、生産年齢人口が減少し、現役世代の一人当たりの負担が増加。医療・介護の人材不足も懸念される。

- ・介護給付費(全国)：3兆円(2000年度)⇒9兆円(2013年度)(約3倍)
- ・介護給付費(福井県)：297億円(2000年度)⇒611億円(2013年度)(約2倍)

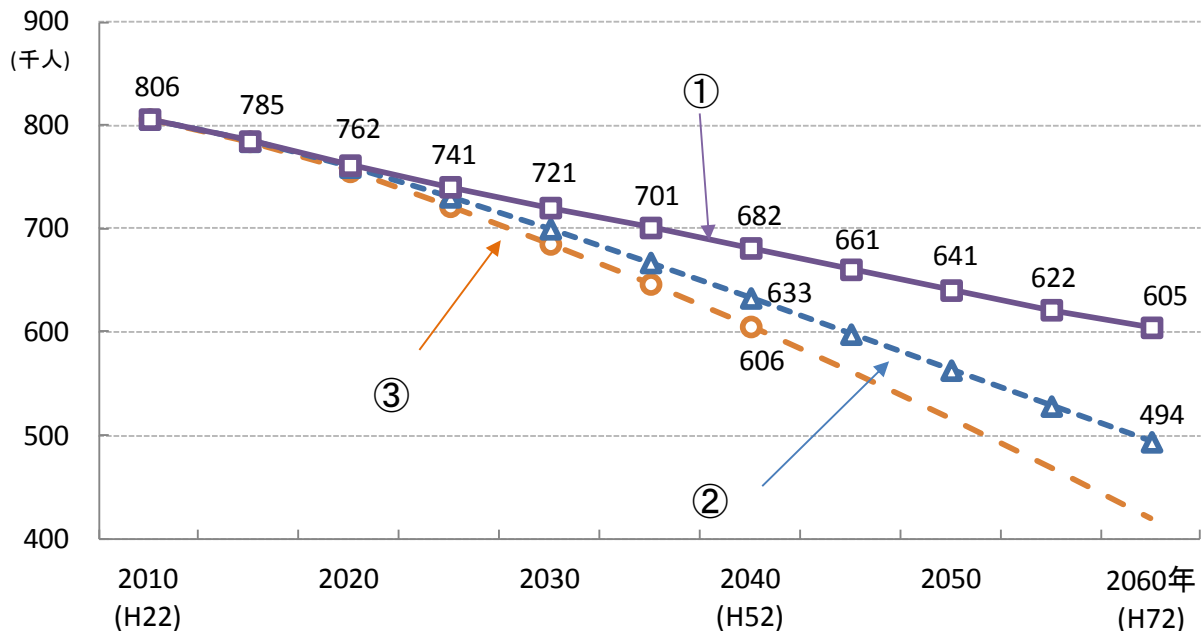
○過疎化の進展により、日常の買い物や公共交通など、日常生活に不可欠なサービスの維持が困難になることが懸念される。

- ・高齢者が5割以上の集落数：99(2008年)⇒151(2013年)
- ・買い物サービスについては、民間事業者の移動販売などがほぼすべての集落をカバー(2015年現在)

3 人口シミュレーション

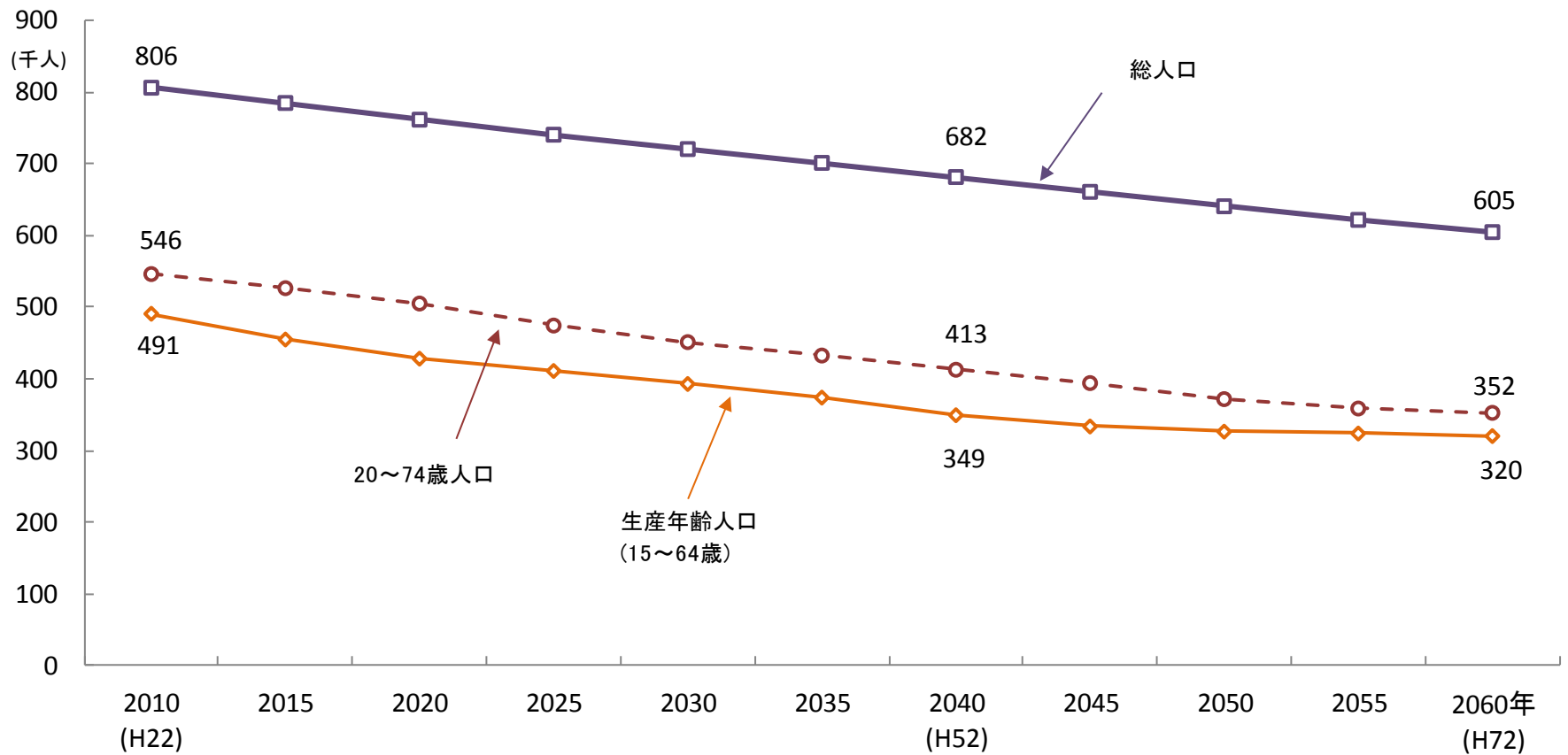
国の「長期ビジョン」等を本県の人口推移に当てはめたシミュレーション

＜国等の推計による福井県の将来人口＞



		推計条件の設定		2040年 (平成52年)	2060年 (平成72年)
①	国の長期ビジョン に準拠	出生率	2020年 1.6、2030年 1.8、2040年 2.07	68.2万人	60.5万人
		社会減	2020年に社会減ゼロ		
②	国立社会保障・ 人口問題研究所推計	出生率	1.5程度で推移(現在の傾向どおり)	63.3万人	49.4万人
		社会減	現在の移動率の0.5倍		
③	日本創成 会議推計	出生率	上記②と同じ(現在の傾向どおり)	60.6万人	40万人 程度
		社会減	現在の移動率で推移		

生産年齢人口の置き換えシミュレーション(国の「長期ビジョン」による)

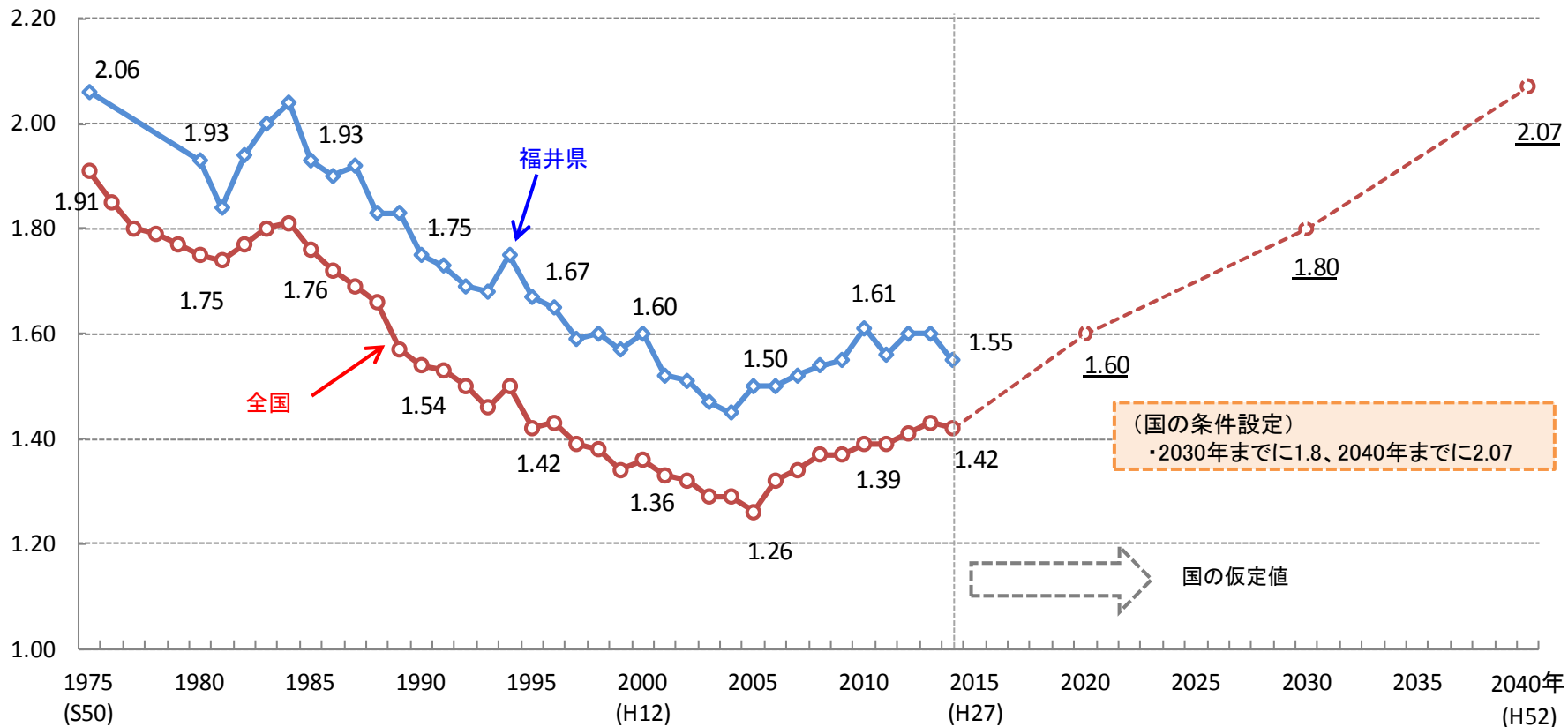


出典: 福井県将来人口推計シミュレーションツール

◎生産年齢人口について実態を考慮し20~74歳に置き換えると、2040年には約6万人の増

(基本データ)

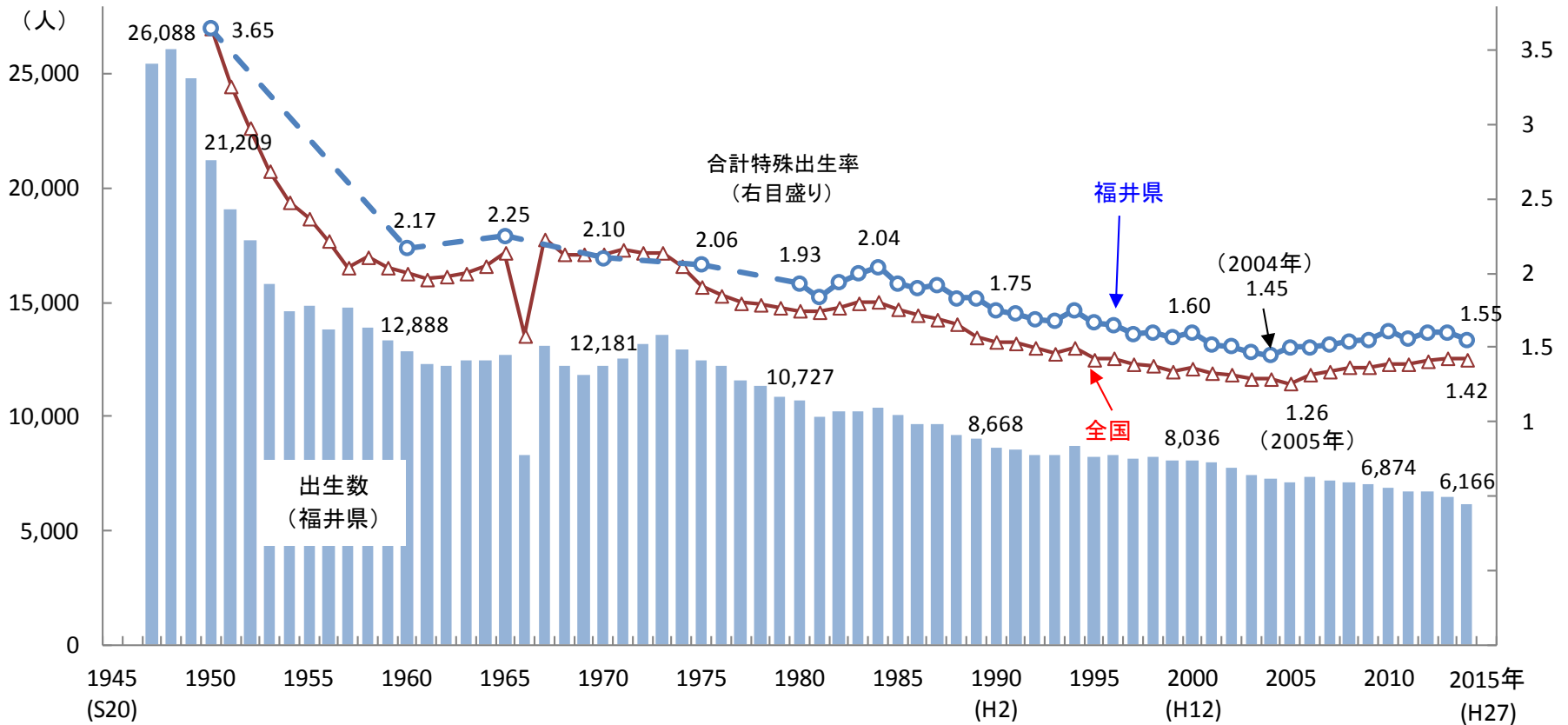
合計特殊出生率の推移(全国と福井県)



出典:厚生労働省「人口動態統計」
「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」

◎本県の合計特殊出生率は、全国に比べ約0.2ポイント程度高く推移

合計特殊出生率と出生数の推移



出典:厚生労働省「人口動態統計」

◎本県の合計特殊出生率は近年改善傾向だが、出生数は依然として減少傾向

結婚・出産および社会移動に関する全国比較

<生涯未婚率>

女性

	2010年	
	都道府県名	割合
1位	福井県	5.64%
2位	滋賀県	6.29%
3位	富山県	6.72%
47位	東京都	17.37%
	全国平均	10.61%

男性

	2010年	
	都道府県名	割合
1位	奈良県	14.08%
2位	滋賀県	14.60%
3位	岐阜県	15.82%
	福井県(4位)	15.83%
47位	東京都	25.25%
	全国平均	20.14%

<平均初婚年齢>

女性

	2010年	
	都道府県名	年齢
1位	福島県	28.59歳
2位	宮崎県	28.82歳
3位	山形県	28.90歳
	福井県(15位)	29.17歳
47位	東京都	30.62歳
	全国平均	29.69歳

男性

	2010年	
	都道府県名	年齢
1位	沖縄県	29.48歳
2位	鹿児島県	29.53歳
3位	宮崎県	29.61歳
	福井県(24位)	30.87歳
47位	東京都	32.12歳
	全国平均	31.18歳

<希望出生率>

	希望出生率	(参考) 2014年出生率
全国	1.80	1.42
福井県	2.07	1.55

<社会増減率>

	2010~2014年平均	
	都道府県名	割合
1位	東京都	0.45%
2位	埼玉県	0.19%
3位	神奈川県	0.13%
24位 (全国中位)	静岡県	△ 0.13%
	福井県(36位)	△ 0.20%
47位	福島県	△ 0.57%

交流人口の拡大

<観光客数の増加目標>

	現状	目標※	差
	(平成25年)	(平成31年)	(平成25⇒31年)
1. 観光客入込数	1,034万人	1,300万人	266万人
うち県外客	456万人	572万人	116万人
2. 外国人宿泊者数	2.8万人	10万人	7.2万人

※観光新戦略に掲げた基本目標

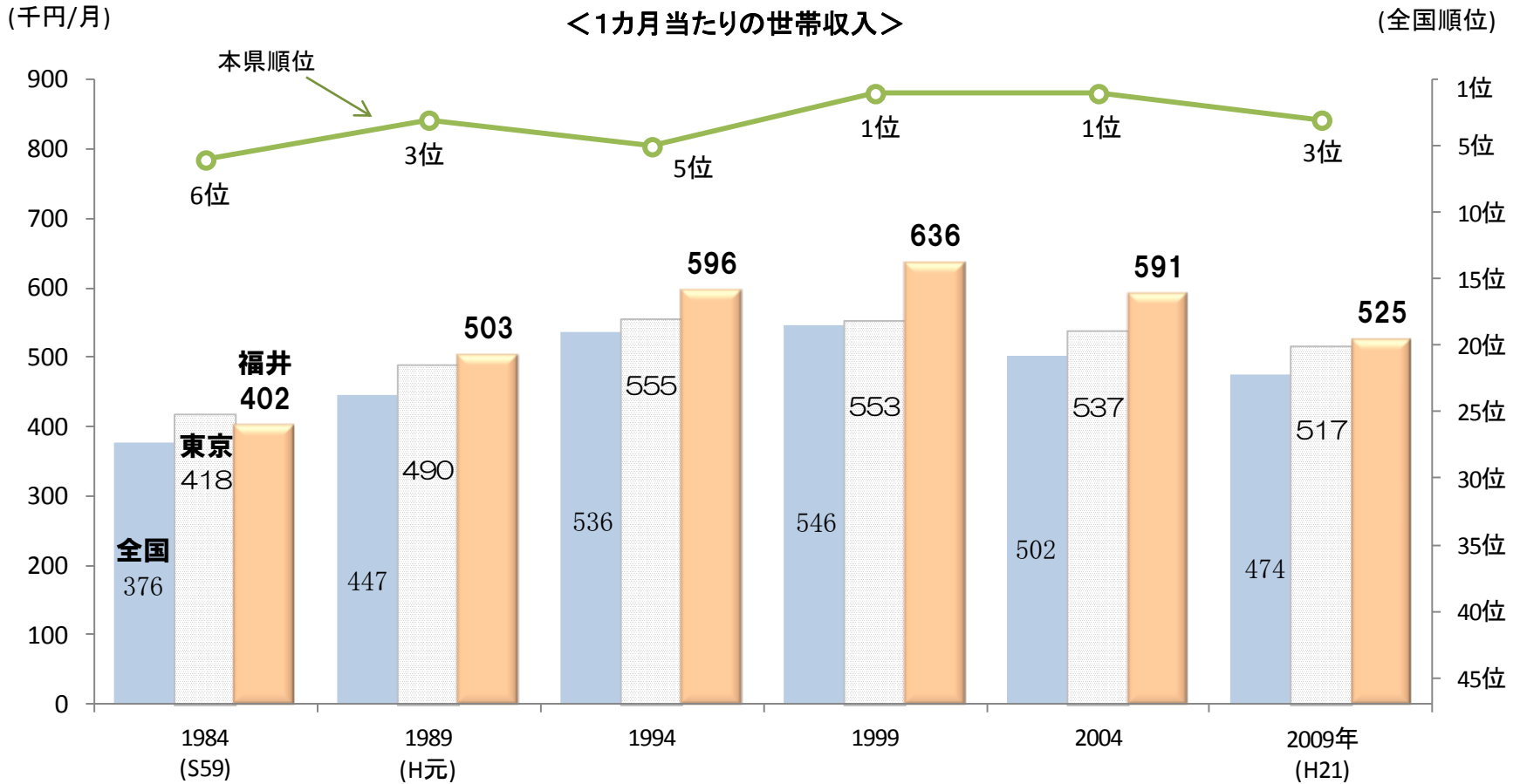
出典:「福井県観光新戦略」(H27)

○定住人口1人分の地域経済の消費額に与える影響は、宿泊客の26人分、日帰り客の83人分に相当(観光庁試算)

○県外客が116万人増加(宿泊6割、日帰り4割。H25本県実績)した場合、定住人口に換算すると約3万3千人の社会増に相当

◎266万人の観光客増加により、約364億円の観光、関連サービス業の消費拡大効果が期待できる。

世帯収入の推移



出典:総務省「全国消費実態調査」(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)

◎本県の世帯収入は全国上位 ⇒ 今後も高い世帯収入の維持を目標に